会長挨拶

公益社団法人高知県看護協会
会長　森下　安子

このたび、2025 年 6 月 14 日に開催されました令和 7 年度高知県看護協会通常総会、理事会にて、藤原房子高知県看護協会会長の後任として、会長を拝命いたしました。高知県は全国に先駆けて少子、超高齢社会、人 口減少が進展し続けています。 分娩のできる施設の減少などにより安心して子どもを産み育てる環境の整備も大きな課題です、また、県内の多くの施設での看護職、看護補助者の人材不足はますます深刻化しております。高知県看護協会として組むべき多くの課題に、会長としての重責を感じております。看護専門職として県民のいのち・暮らし・尊厳をまもり支えている会員の皆様が自信と誇り、働きがいをもって専門性を発揮していくために、会長として、役員、職員、そして会員の皆様とともに考え、アイデアを出し合いながら、課題解決に向け取り組んでまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、日本看護協会は、さらなる少子高齢化の進展、そして DX の推進や働き方改革など、看護を取り巻く環境は大きく変化していく 2040 年に向けて、「看護の将来ビジョン 2040～いのち・くらし・尊厳をまもり支える看護～」を 2025 年 6 月に公表し、将来を見据えて看護が進むべき方向性、果たすべき役割を明示しました。

2040 年は、医療・介護の在り方も大きく変容し、先例のない状況をもたらすと言われており、看護職はこれまでの習慣や既存の枠組みにとらわれず、大胆に発想を転換する必要があります。このビジョンは、社会が大きく変革していく中においても、私たち看護職は“いのち・暮らし・尊厳をまもり支える看護”を提供することは不変なものとし、変化に応じて看護の持つ力を十分に発揮していくために、挑戦する目標として、以下の 3 つをあげております。

■その人らしさを尊重する生涯を通じた支援、
■専門職としての自立した判断と実践、
■キーパーソンとしての多職種との協働

また、このビジョンでは、看護職が活躍する基盤となるものとして、看護職自身がまずより健康で安全に充実感をもって働ける、看護職一人ひとりの“ウェルビーイング”が重要と

していることも特徴であると考えます。つまり、看護職が身体的にも精神的にも社会手にも満たされた状態であり、日々の看護実践にやりがいを実感し心身ともに充実して働けることをより重視しています。

詳細はぜひ日本看護協会の web サイトをご覧ください。

高知県看護協会でも、日本看護協会が提示した「看護の将来ビジョン 2040～いのち・くらし・尊厳をまもり支える看護～」に向け、会員の皆様とともに知恵を出し合いながら、高知県としての具体的な取り組みを進めてまいります。例えば、すでに地区支部を中心に多職種事例検討会を開催するなど、“キーパーソンとしての多職種との協働”の目標実現に向け、県独自の取り組みも既に行っています。これらの強みも生かして推進できればと考えています。

最後となりますが、会員の皆様のご健勝とますますのご活躍をお祈りして、会長のご挨拶とさせていただきます。